

複式学級における道徳科の授業実践について

音更町立南中音更小学校 学級数 2 (校長 水口 一)

I 研究実践の概要

道徳の時間が「特別の教科 道徳」となり、昨年度より教科書を使った授業が行われている。本校は2年前から、校内研究の教科を「特別の教科 道徳」とし、極小規模校の学年別指導における「考え、議論する道徳」、「多面的・多角的な考えを引き出す授業」の在り方について実践を重ねてきた。昨年度から「南中授業スタイル」を確立し、本年10月に行われた「音更町複式教育研究大会」において、その実践を発表し、各学校から指導助言をいただき、さらなる授業改善を目指している。

II 「南中授業スタイル」について

1 「1時間の授業の流れ」

2個学年の直接指導による本時の課題の明確化、学年別指導（わたり・ずらし）による教材を活用した道徳的価値の理解、2個学年の直接指導による振り返る学習活動を位置付けている。

2 「テーマ発問の活用」

授業の導入時に、本時の道徳的価値に迫る「テーマ発問」を2個学年の直接指導で行い、その後の学年別指導を経て、授業の終末において2個学年の直接指導で自己の考えを振り返らせている。2個学年の児童が同じテーマの下、議論を深めることをねらいにしている。

3 「ワークシートの活用」

間接指導時に、ワークシートを活用し、主体的な学習を促すとともに、ワークシートの記載を評価に生かしている。

4 「教師の説話」

終末に児童の考えを揺さぶるような教師の説話を取り入れ、より学びを深めるとともに、多面的・多角的に捉えることができるように児童の考えを引き出している。

5 「2個学年で内容項目を合わせた指導計画の作成」

2個学年の内容項目を合わせた指導計画を作成し、各学年の到達目標の達成に向け、同じ内容項目で授業を行うようにしている。



【導入～2個学年の直接指導】



【学年別指導】



【終末～2個学年の直接指導】

III 成果と課題

- 本校は極小規模校のため、1、2名の学級があり、「考え、議論する道徳」、「多面的・多角的な考えを引き出す道徳」をどのように作り上げていくかが課題であったが、「南中授業スタイル」を取り入れたことにより、本校における道徳科の授業スタイルを確立し、児童に学び方を身に付けさせることができた。
- 児童はこの学習形態に慣れ、「自分の考えを自由に話すことができる。」、「他の学年の考えも聞くことができる。」など、共感的に学習に参加し、考えを深めることができた。
- 人数の少ない学年においては、教師主導の授業展開の場面が多くなりがちで、今後は他の授業と同様に、学習リーダーが中心となり、児童たちが自ら授業を進めることができるよう支援していきたい。
- 議論する場面においては、「自分の考えを発表するのみ」に留まっていることから、今後はお互いに質問したり、意見を言い合ったりできるよう支援していきたい。